



マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

会場 みやこめっせ 〔京都市左京区岡崎成勝寺町9-1〕

交通 京都市営地下鉄東西線「東山駅」1番出口より徒歩8分

10月24日(木) プログラム(9:00開場)

9:30

① リスクアセスメント実施による安全な職場づくり

川崎重工業(株) 明石工場 航空宇宙システムカンパニー
エンジン生産本部 明石製造部 明石検査課 班長

色川 貴史

班長任用時の安全衛生教育として、リスクアセスメントの手法を活用し、担当する回転翼航空機用メインランスミッション目視検査に潜む危険有害要因の対策を実施した。安全面だけでなく、作業面でもやりにくくならないよう配慮し、リスクを低減する事で、安全な職場づくりを実現できた。

9:50

② D37PLLリフトシリンダ取り付け改善

(株)小松製作所 粟津工場
生産部 クローラ組立課 第一センタ

阪下 直樹

ブルドーザの部品取り付け作業でのリスクを低減した活動。当初ホイストで部品を吊上げて行っていたが、関連する作業がある前工程とサブ組立工程の作業者とも話し合った結果、専用台車を使用することによりホイスト作業を撤廃しレベルⅢリスクを撲滅するとともに作業工数も削減できた。

10:10

③ 評価し易い、対策し易い、展開し易い安全体系表を活用した後戻りしない安全活動

(株)伊吹LIXIL製作所
総務課 チームリーダー

長谷川 俊夫

2012年から進めてきたリスクアセスメント活動により職場は安全になってきたが、ある時から現場が後戻りしてしまうことが起き始めた。これを打開すべく各課安全担当者の知恵を結集し、安全体系表を作成し、全従業員が同じ目線で職場を点検し後戻りしない活動で災害防止に繋げた。

(10:30～10:40 休憩) 10:40

事例報告

安全衛生組織の強化によるNTNグループの安全衛生マネジメントの取り組み

NTN(株)本社
EHS(環境・労働安全衛生)統括部 主任

清水 一人

国内の大小24事業場の安全を本社が統括管理するために、労働災害情報の共有による類似災害予防活動や安全担当者への教育・訓練を行ってきた。また、活動の評価のために事業場相互監査やISO45001などマネジメント審査を改善の機会とし、レベルアップしている状況を紹介する。

11:10

事例報告

IDEC滝野事業所におけるOSHMS(ISO45001)構築・運用に向けた取り組み

IDEC(株)
生産・SCM本部 本部長 執行役員

赤松 浩二

全社員との協議と参加のもと、労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)を構築・運用することで、継続的で、スバイラルアップ可能なPDCAをまわし、労働災害“ゼロ”と、安全で健康な職場環境の実現を目的とした、IDEC滝野事業所での取り組みについて報告する。

11:40



マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

11:40

事例報告

JISQ45100のもとでの無災害継続への取り組み

(株)明治 関西栄養食工場・関西工場
工場長

古池 智彦

関西栄養食工場は、操業後4年8ヶ月無災害を継続。工場設立当時の理念や操業後の安全活動が功を奏しているがマンネリも見られ、活動の質の向上なくして無災害継続はできないという危機感がある。関西工場も同様の状況であり、質の向上をJISQ45100認証取得と合わせて取り組んでいる。

(12:10～13:30 昼休み) 13:30

事例報告

JISQ45100導入による労働安全衛生活動の向上～認証取得活動～

第一工業製薬(株) 四日市事業所 千歳および霞工場
四日市事業所長

渡邊 競

弊社では厚生労働省指針に準じた安全衛生活動を実施してきたが、労災件数の下げ止まりが課題であり、活動の見直しのため、JISQ45100の導入を決めた。全くのゼロスタートではないが、既存の認証を持たない弊社が、如何にして約1年間の活動で認証を取得できたかを発表する。

14:00

パネルディスカッション

これならできる！日本版マネジメント規格「JISQ45100」～導入の押さえどころと認証取得～

パネリスト キヤノン(株) 人事部ヒューマンリレーションズ推進センター安全衛生部 主席

NTN(株) 産業機械事業本部 金剛製作所 管理部人事労政課長

日本製鉄(株) 安全推進部 部長

中央労働災害防止協会 上級執行責任者 兼 安全衛生マネジメントシステム審査センター 所長

司 会 中央労働災害防止協会 安全衛生マネジメントシステム審査センター 認証審査課長

白幡光治郎

今田 康博

朱宮 徹

玉水 建一

森田 晃生

(15:50～16:00 休憩) 16:00

④ EHS(環境・衛生・安全)に対する取り組みについて

イー-ton(株)
生産技術部 EHS コーディネーター

中島 恵子

世界175ヶ国で事業展開するEaton社では、様々な文化背景を持つ従業員が働いている。その様な中、各拠点で安全衛生環境について同じ基準で事業活動するためにEHSマネジメントシステムを運用している。その概要、日本におけるMESH展開の道のりおよび具体例を紹介する。

16:20

⑤ 環境、労働安全衛生マネジメントシステムの融合と防災管理を含む包括的マネジメント

(株)村田製作所
CSR・環境安全部 環境安全推進課 マネージャー

佐々木 賢市

弊社ではEMSとOHSASが独立し、それぞれで運用してきた。しかし、両規格は類似しており、一つに融合した方が合理的と考え、EHSマネジメントシステムに移行した。併せて、防災管理にも応用したいと考え、防災マネジメントシステムを構築しPDCAによる業務効率化を図った。

16:40

⑥ 労働安全衛生のISO化を視野に入れた環境・安全衛生のコラボ活動事例

(株)日立建機ティエラ
総務部 環境・安全グループ グループリーダー

牛谷 健司

公共交通と徒歩・自転車で通勤する従業員はエコ通勤によるCO2削減に貢献するとともに、自身の健康維持にも効果がある。特定保健指導対象者に徒歩・自転車通勤を勧め、昼休みの時間にウォーキング啓発を行っている。今回「健康経営エコ通勤ラベル」を作成して活動の拡大を始めた。

17:00

10月25日(金) プログラム(9:00開場)

9:30

⑦ リスクアセスメントによる安全な職場づくり

東日本旅客鉄道(株)
秋田信号通信技術センター 電気技術主務

梅田 康介

本研究発表に至った経緯として、グループ会社で社員の墜落事故が発生し自分たちの作業において墜落する可能性を検討し対策を取ると同時に、作業ごとのリスク検討が必要と感じたためである。

9:50



マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

9:50

8 操業グループにおけるリスクアセスメントの取り組み～破碎機内部作業の安全対策～

エコシステム岡山(株)
操業前処理リーダー

北村 陽一

操業グループは、選別・破碎と焼却炉の運転を行っている。リスクアセスメントを行う上で、重傷災害以上のリスクについて優先度を上げて取り組む必要がある。作業者の意見を集約し、重傷災害以上をテーマとした。報告会を理解しやすくする必要があるので、現場にて報告を行っている。

10:10

9 重篤災害ゼロを目指し新たなアプローチで取り組むリスクアセスメント活動～現場・協力会社さんと共に～

宇部物流サービス(株) 宇部事業所
業務部 業務第一グループ グループリーダー

河口 勉

多種多様な製品群の構内物流に潜む重大リスク(激突・薬傷・転落等)について、本音の議論と会社の仕組み(重大リスク評価委員会)をうまく活用しコミュニケーション強化を図りながら本質改善をスピーディーに実現できた。総合力を結集して達成できた改善成果・波及効果を発表する。

(10:30～10:40 休憩) 10:40

10 リスクアセスメントの課題分析とセーフティアセッサ制度の活用事例

日本認証(株)
SA事業部教育部 部長

栃尾 昌洋

今日リスクアセスメントは常識化しつつあるが、安全になったと実感できる担当者は多くない。そこで改めて各部署の役割をモデル化し、企業の聞き取り調査から共通課題とその解決策についてまとめる。また、解決策としてのセーフティアセッサ制度の国際的活用事例について紹介する。

11:00

11 微量PCB汚染物コンデンサ素子切断作業の改善

エコシステム秋田(株)
操業二課 3号炉前処理

新田 元貴

微量PCB無害化においては、PCBが持つ毒性や難分解性といった特性から、PCBが飛散・漏洩等しないよう厳しい管理が求められる。本発表は、コンデンサ素子切断における災害を教訓に、当該作業の安全性向上とPCBの適性管理の両立をRAにより実現した例を報告する。

11:20

12 パスボックス経由運搬作業の作業姿勢改善

DOWAセミコンダクター秋田(株)
基板製造部 製造課

佐藤 いづみ

OWAS法という手法を用いて作業姿勢改善に特化したリスクアセスメントを実施した。自分たちでの検討に加え、社内の現地報告会や指導会での意見やアドバイスも取り入れることで、高い位置で重量物を出し入れする作業をなくすことができ、女性でも楽に作業できるようにした。

11:40

13 朝礼モデルケース現場における安全活動の取り組み

東日本高速道路(株) 東北支社 山形工事事務所
建設専門員

山田 光雄

早朝時にも多くの事故が発生していることから安全方針の明確化と水準の向上を目的に、受・発注者が一体となって舗装工事をモデルケースとした朝礼活動を見直した。6ヶ月後のアンケートでは、7～8割が、安全改善意識、コミュニケーションの向上等に効果があった旨の成果を得た。

(12:00～13:00 昼休み) 13:00

14 「東海道本線柱町Bv新設工事」におけるリスクアセスメントの取り組み

名工建設(株) 柱町Bv作業所
名古屋支店 鉄道土木工事部 社員

波多野 里菜

線路下土被りの薄いエレメント推進工事において、重大事故を見逃さないリスクアセスメントによる施工計画の策定やエレメントけん引時・休工時における軌道変状やエレメント管内の異常を早期発見・対応のできるような監視体制の充実、見える化による安全指導などを紹介する。

13:20

15 事故・事象の見える化による危険因子の抽出について

東日本旅客鉄道(株)
東京支社東京電車区 主任運転士

小貫 倫彦

事故原因の大半は人による取扱い誤りであるが、その認識が希薄だった。そのため、発生した事象の可視化により問題点を共有した。また、併せてエラー体感システムを活用し、事象発生メカニズムへの理解を深めた。結果、仕事への姿勢に変化が生まれ、事象件数が減少傾向となった。

13:40

16 INPEXにおけるHSEリスクアセスメントの紹介

国際石油開発帝石(株)
HSEユニット プロセスセーフティグループ

松井 哲志

当社は2006年にHSEポリシーを導入しHSEマネジメントシステムの確立と改善を実施してきた。当社のHSEMSはIOGPをベースにしており、リスクアセスメントはその中核の一つである。当社のHSEリスクアセスメントのスコップやプロセス、質を確保するためのツールや体制、実務内容について紹介する。

(14:00～14:10 休憩) 14:10



マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

14:10

講

演

「想定外」を乗り越えるしなやかな現場力を創る
～「失敗を防ぐ」から「成功を続ける」へ～

(株)社会安全研究所 技術顧問
立教大学 名誉教授

芳賀 繁

これまで、ヒューマンエラーの背景要因を取り除き、エラーをしにくい作業手順を決め、機器のデザインを改め、組織的な安全マネジメントを推進して、事故と労働災害を減らしてきた。それは確かに大きな成果をあげてきた。しかし、近年、安全水準は下げ止まっており、これまでのアプローチを強化するだけでは、効果が薄いばかりか、現場の意欲を低下させかねない状況である。一方、自然災害、テロ、人間の予想に反する技術システムの行動などが引き起こす想定外事象のリスクは年々高まっている。そのような場合には、マニュアル通りの行動ではなく、臨機応変な対応が必要と考えられる。本講演では、これからの時代に安全を確保するには、何をどう考え、どう行動していけばよいのかを論じたい。

15:10

安全管理
①

マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会 会場にて
「ISO45001/JISQ45100 認証取得の無料相談コーナー」開催！